

登別市における公共交通の課題と今後の対応（案）

登別市の公共交通を取り巻く課題	現状	(1) 課題の整理	No.	(2) 課題解決に向けた取り組み案
人口減少・生産年齢人口の減少	現在の人口(令和2年10月末) 46,919人 2040年(令和22年)の推定人口 36,411人	1. 将来の人口変動を見据えた対応	①	◆公共交通維持を目的とした運行便数・経路の見直し ⇒減便や廃止の可能性も含めて包括的に検討
高齢化の進展	現在の高齢化率 36.6% 2040年(R22年)の推定高齢化率 46.0%	2. 高齢者への対応 ・高齢者等の交通弱者の移動手段確保 ・自家用車に代わる移動手段の確保	②	◆高齢者のライフスタイルに合わせた公共交通の導入 ・高齢者向け公共交通助成制度 ・運転免許証返納者への支援の検討 ・公共交通利用促進策の実施 ⇒住民意見交換会の実施 ⇒乗り方講座・危険運転等の情報発信 など
運転免許証自主返納者の増加	室蘭警察署管内の運転免許証返納者 令和2年(10月末時点) 473名 令和元年 509名 平成30年 357名			
・自家用車をメインの移動手段とした生活習慣 ・公共交通利用者数の減少	・市内で自動車と運転免許証を保有している割合が7割を超えている(公共交通に関する市民アンケートより) ・道南バスの売上4割減(R2.11.15室蘭民報)	3. 既存の移動手段等を使いやすくする	③	◆既存の移動手段を活用した支援体制の構築 ・利便性向上を目的としたシステム(バスロケ・MaaS※1等)の導入 ・乗継割引等の導入による利便性の確保 ・JRとバスのシームレス化(スムーズな乗継の検討やバス路線の再編)
・バス運転手の不足による減便 ・病院等における送迎バスの老朽化	乗務員・車両不足による路線バスの減便あり (令和元年12月)	4. 輸送手段の確保 ・運転手の募集と育成の推進 ・多様な交通の活用による移動の確保	④	◆運転手不足に対応した輸送手段の確保 ・交通事業者と連携した採用イベントの実施 ・病院等の無料送迎バス・スクールバスとの連携
国内外の観光客への対応	・観光客向けの公共交通に関する情報提供を充実させる必要がある ・登別温泉地区における安全・環境に配慮した公共交通の支援が必要	5. 観光客に対する移動の支援 ・観光客に対する有益でわかりやすい情報発信 ・ウポポイへの送客	⑤	◆観光客に対応した移動支援 ・ウェブサイト等によるタイムリーな運行状況等の配信 ・JR登別駅周辺環境整備(電子掲示板など) ・登別温泉地区におけるグリーンスローモビリティ※2の運行 ・公共交通によるウポポイへの送客の推進
公共交通空白地域への対応	市街化区域内の公共交通勢力圏人口カバー率は82.7%(バス路線のみの場合は71.2%)であるが、一部は公共交通空白地域となっている	6. 公共交通空白地域の解消	⑥	◆交通空白地域における移動支援 ・デマンド※3型の公共交通導入 ⇒予約運行のシステムやMaaSの導入も検討 ・MaaSの調査・検討

※1

○バスロケ：バスロケーションシステムの略で、バスが現在どこを走っていて、どのくらいでバス停に到着するのかが分かる仕組み
○MaaS：モビリティ・アズ・ア・サービスの略で、JR・バス・タクシー・予約運行など様々な交通の情報を集めて、事前情報から利用・決済に至るまでを一元管理する公共交通をサービスとして扱う仕組み

※2

○グリーンスローモビリティ：低速で走り、環境負荷が少なく、狭い路地も通行が可能で、高齢者の移動手段の確保や観光客の周遊に活用できる新しい移動手段

※3

○デマンド：利用者の予約に応じて運行する形態

現在の取り組み

- ・公共交通に関する市民アンケートの実施
- ・路線バスの利用者の実態調査
- ・公共交通機関等へのヒアリング
- ・MaaS簡易版の構築

今後の協議会での取り組みについて

- ・目指すべき公共交通の方針について協議【協議は次回会議を予定】
- ・登別市公共交通計画の素案について

など…